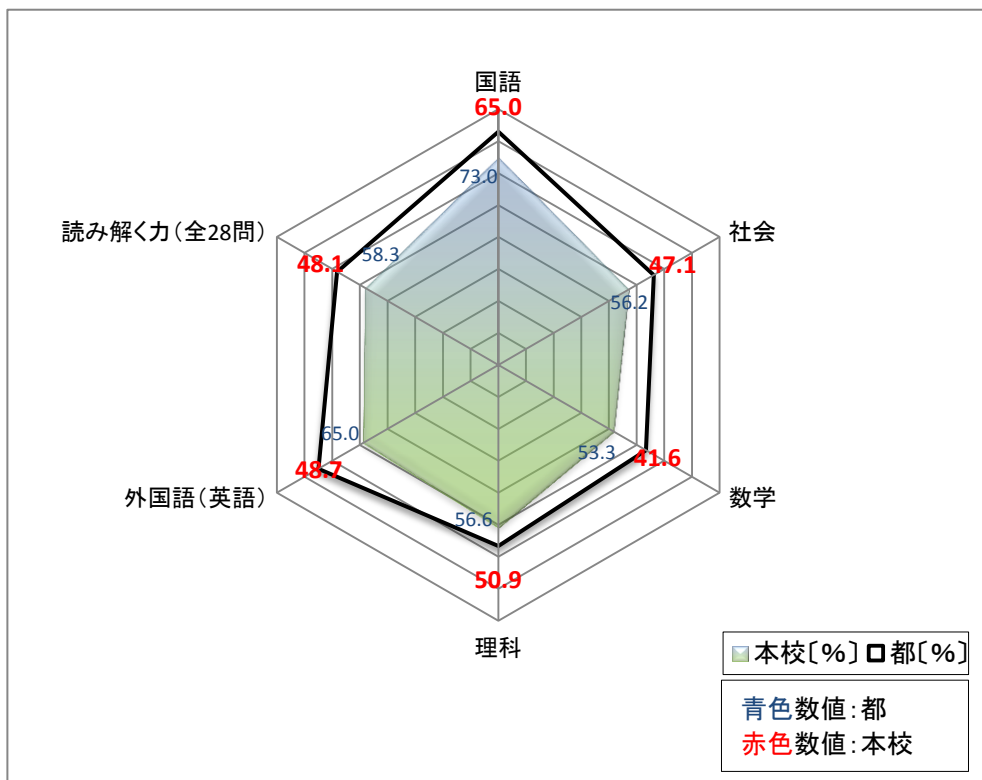


# 平成29年度児童・生徒の学力向上を図るための調査結果による「確かな学力向上推進プラン」策定のための課題分析表

松江第四中学校

《学力調査結果チャート》※本校と都の平均正答率の比較



## 《現状把握》

5教科を平均すると、都の平均値より10.1%下回っている。「関心・意欲・態度」では、英語は都平均値を大きく下回っている。「思考・判断・表現」においては、国語が都平均値と同じ値を示しているが、他4教科は平均8.4%下回っている。技能では、理科が都平均値に対して3.5%上回り、他4教科平均で12.5%下回っている。国語は「読む」において都平均値を4.2%下回っている。「取り出す力」では、数学が-26.1%、英語が14.3%、「読み取る力」では、数学が-21.9%、英語が-14.7%、「解決する力」では、平均して7.6%下回っている。

## 《授業改善のポイント》(推進プランは別紙)

読書科を中心に、朝の読書の時間を徹底させる。筆者の気持ちを読み取る力、文章を構築する力を身につけさせて、「読む力」、「書く力」をスキルアップさせていく。

数学では、数学的用語を理解させ、授業中に使用頻度を高めていく。

理科では、実験をより増やすと同時に、発表やレポート作成の時間を増やす。また、実技テストを個別に行い、意識を高めていく。

社会では、地図や資料を活用し、「技能」を高め、単元毎に小テストを行い、「知識・理解」を定着させていく。また、各教科ともコンテストの活用をしていく。

## 《チャートの特徴》

28年度と比べて、5教科平均して都の平均値を下回っている。外国語において、特に、都の平均正答率との差が大きい。

## 《家庭・地域への働きかけ》

家庭学習ノートの継続、及び家庭で学習する時間の確保を各ご家庭に呼びかけていく。

読書の意義や喜びを分かちあえる環境を、朝読書やビブリオバトルを通して継続して行う。